

氏名	森 泰三
授与した学位	博士
専攻分野の名称	環境理工学
学位授与番号	博甲第3187号
学位授与の日付	平成18年 3月24日
学位授与の要件	自然科学研究科資源管理科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	都市域における人口高齢化と都市環境
論文審査委員	教授 北村 修二 教授 品部 義博 教授 阿部 宏史

学位論文内容の要旨

わが国では、2000年国勢調査によると人口高齢率が17.3%であり、高齢社会となっている。また、少子化がさらに進み2006年から人口減少時代を迎えている。高齢人口は都市部と農村部では、都市部の方がその絶対数は多く、増加のスピードも早い状況にある。人口高齢化問題は都市問題の1つとして考え、よりよい街づくりについて検討する必要がある。

第I章では、地方中心都市の事例として岡山市を研究対象地域とし、都市内部の小学校区単位のミクロな視点から、年齢階級別人口をもとに人口高齢化地区を抽出し、それを規定している要因を分析した。第II章では、大都市圏周辺の住宅都市の事例として豊中市を研究対象地域とし、市域内部における人口高齢化の地域間格差を見だし、人口高齢化地域の形成に関する規定要因を考察した。第III章では、都市域において点在している住宅団地について、人口高齢化について住宅の所有、形成時期、規模、都市域内での位置などとの関わりから分析を行い、住宅団地の様々な条件から人口高齢化の動向も違うことを検証した。第IV章では、地方中心都市である岡山市の人口移動と居住地選択の動向を検証した。

岡山市や豊中市を事例とした人口高齢化の研究から、都市内部において人口高齢化の地域間格差を見ることができた。また、人口高齢化地域は都市化過程の中で形成され、人口高齢化は非高齢人口の減少と高齢人口の増加または停滞という組み合わせのもとで起こる高齢人口の残留状態で検証することができた。

各住宅団地の年齢別人口構成から、住宅団地の人口高齢化の観点からを6つのグループに分類した。形成時期が古い住宅団地ほど特化した世代が高い年齢層にあり、すでに極端な人口高齢化の進展が見られる。また、各住宅団地の実態調査から、市街地および市街地周辺の賃貸住宅を多く含んでいる住宅団地では、急激な人口高齢化を招いており、都市郊外の持ち家中心の住宅団地では、将来、市街地とのアクセスや坂が多い地形など不便な面が発生してくることが考えられる。

居住地選択の研究から都市域内での人口移動の特化した地域を析出し、都市域内での位置、住居の所有などの属性から分類することができた。また、アンケート調査から都市域内での人口移動では、セクター内での移動が非常に多いことが確認できた。岡山市にUターンしたグループでは、岡山市以外の岡山県内、岡山県外どちらも、岡山市内の生まれ育った地区、親の住まいの近くを指向している。

論文審査結果の要旨

本研究は、都市において今後最も急速に展開する高齢化問題へ対処すべき方策を意識して、都市における高齢化の社会や地域構造の実態を把握するとともに、その要因や形成メカニズムを解明し、都市高齢化社会の課題への対応をも検討しようとするものである。

このため高齢化の進展状況とその実態を、地方中心都市の岡山市および大都市圏の豊中市等において、国勢調査の統計分析や地域実態調査等から解明した。次いで、その高齢化の地域や社会構造状況を規定する要因並びにその形成メカニズムを解明した。豊中市では41学区を対象に、都市の位置や経済、居住環境に関する26の変数による因子分析から、規定要因を解明した。また岡山市では、住宅団地の高齢化を、開発規模や時期、住宅の所有形態の違い等から解明した。また岡山市の82小学校区、またさらに詳細な全市域682町丁別に、高齢化また人口移動のパターンの地域構造の特徴を、ライフサイクル、ライフイベント、および（年齢、就職、自宅購入、結婚、居住時期、転職等の）居住地選択分析から解明した。これには、岡山市民326人に対して実施したアンケート調査結果を利用した。

その結果、把握・解明できた人口移動や高齢化パターンの地域構造の実態や分類・グルーピング化は、都市域内での位置、住宅所有形態やその状況、また住民特性に関わること、また居住者の居住地選択要因に規定されていることが解明できた。

このように本研究は、都市地域における高齢化や人口移動パターンの実態を把握するとともに、そのグルーピングや類型化、並びにその形成要因分析を踏まえて、そこでの課題を検討し、それへの対応等をも検討した、学問的のみならずまた社会的にも意義深い研究で、博士の学位に値するものである。